

三菱ガス化学株式会社「2021年度第2四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時 : 2021年11月9日(火) 10:30-11:30 (WEB説明会)

説明者 : 代表取締役社長／藤井 政志

取締役 常務執行役員 基礎化学品事業部門担当／長岡 成之

取締役 常務執行役員 機能化学品事業部門担当／香坂 靖

執行役員 財務経理部長／木浦 智之

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

Q1: 機能化学品の下期の予想が慎重に見えるが、半導体、スマートフォンレンズ関連の需要の見通しをどうみているか。

A1: 光学樹脂ポリマーについては、上期に減少したところからの回復途上にある。直近はかなり需要家の在庫が解消しつつあり、当社に対する発注も回復しつつある。ただ、昨年と比べると、まだそこまでの力強さは感じられていないところで、前回予想よりも若干ながら下方修正した。光学樹脂ポリマーの需要は、最終需要家の動向にもよるので、今後の市場動向には注意していく。

電子材料(BT材料)関連は上期非常に好調で、想定以上の実績であった。上期が非常に強かったのは、半導体不足に起因して、中間在庫を貯めた需要家がいた影響もあると解釈している。下期も、昨年実績と比べ若干伸びる予想で、堅調な需要が継続すると想定している。

Q2: スマートフォン市場の見通しとして、下期以降どのような回復のトレンドを見ているのか。レンズ材料の中期的な成長戦略、鹿島での投資計画に関して伺いたい。

A2: スマホメーカー各社で戦略を立てているので、個別のコメントは差し控えるが、全体としては堅調に回復しつつあるというところだと思う。一つ付言すると、中国ローカル企業の動向が変動しており、その辺りはキーになる。光学樹脂ポリマーの鹿島の増強は計画どおりに進めている。

Q3: 来期以降は、例えば10%から20%ぐらいの成長軌道に戻って売上高は伸びていくという見立てか。

A3: 具体的な数字は回答を控えるが、堅調な回復軌道に戻り、10%にかなり近い数字は期待できると考えている。

Q4: カーボンニュートラルの実現について。今後、実際にCCS、CCUSを進める上で、タイムラインはどれぐらいを考えているのか、どれぐらいの時期に事業化を期待しているのか。また、CO₂原料メタノールや、CO₂原料ポリカーボネートについて、コンソーシアム方式、海外で展開していく事業機会については、どう考えればよいか。

A4: 苫小牧でCCSをここ10年近く進めており、30万トンのCCSに成功しているため、技術的な確認は既にできている。次のCCSをどこでやるのかを関係各社で協議中であり、苫小牧に続く場所を、今現在特定中である。

天然ガス鉱区については、当社は新潟地区にこの 50 年間持ち続けており、かなりの量を天然ガスで掘削してきた。そのため、その鉱区に相当量の CO₂ を貯蔵・封入できることが苫小牧での実験で証明されたと見ている。計算の仕方がいろいろあるが、数億トン規模の CO₂ を、当社が保有する、もしくは参画している鉱区に封入できると考えている。

もう一つ、水溶性天然ガスの鉱区も持っており、各種実験を進めている。これが成功すれば 6,000 万トンぐらいの CO₂ を封入することができると思っている。実験を重ねながら確実性を高めていき、地域の了解も得ながら進めていきたい。

タイムラインは非常に難しいところだが、2030 年までにはできればスタートさせたい。

一方で、CCU に関しては、CO₂ からのメタノール、CO₂ からのポリカーボネートについて、経済産業省に申請中であるが、今の段階では詳細は申し上げられないのでご容赦いただきたい。

今後どのように海外あるいは国内に展開していくかは、ポリカーボネートは通常のポリカーボネートとどう差異化しながら販売できるのかが今後の課題で、少し時間をかけながら進めていく。環境循環型のメタノールはもう少し早く実現できると考えており、CO₂、水素からのメタノールが既に新潟のパイロット実験で完成している。まずは国内で、パイロットの次の規模を目指す。数年内に 1 万～2 万トンの規模を実現できると考えており、FS を進めている。

海外でのコンソーシアムについては、CO₂ や水素の在り方との関連がある。例えば、サウジアラビアで CCS の機運が高まり、「水素の用意ができるので、ここでメタノールを大量に生産したい」という意向がもし動いてくれば、連携も考えられる。当社も提案はしているが、時間はかかると思う。また、世界中の石化製品群の製造過程から出てくる CO₂、水素をメタノールに変えていこうという話もあり、数年掛けて FS をやりながら、それが本当に実現可能なのかどうかということも含めて、検討していく。

個社でできるところは限られているため、オールジャパンで、2030 年までには方向性を出しながら着実に進め、できれば 2030 年以前に取り掛かりたいというタイムラインで考えている。

Q5: 政府からの補助金も期待しているのか。オールジャパンでやっていかなければならない話なので、政府の力や、民間のコンソーシアム方式も使って、ナショナルプロジェクト型でやっていく、そこで御社も適切な補助金などを受ける形が重要なのではないか。

A5: CO₂ からのメタノール、CO₂ からのポリカーボネートについては、経済産業省と協議中である。また、苫小牧での CCU についても、NEDO の資金を活用しながら進めていくことも検討している。アンモニアも、オールジャパン、もしくは海外勢も入れたアンモニアの製造者が集まって、実現させていく方向にしなければならない。数社と協議中で、海外からクリーンなアンモニアを持ってくることを検討中である。個社の力や、数社がコンソーシアムを組むだけでは難しく、補助金がなければ難しい世界だと考えている。

カーボンニュートラルは、当社にとっては追い風だと考えている。社会貢献だけではなく、自分たちの CO₂ の削減のためにも着実に進めていき、2050 年にはカーボンニュートラルに持っていきたい。同時に、経済的価値も追及していく。

Q6: 新たに発表となった欧州 MXDA の投資額は 200 億円程度か。現状の日本での生産能力に対して、欧州はどれぐらいの規模感なのか。

A6: 投資額は、具体的な金額は非公開だが、200 億円よりはもう少し上の水準である。欧州の能力は 2 万 5,000 トンであり、既存の新潟、水島よりも規模的には少し大きなものとなる。トータルの生産量は、「5 割以上は増えるが、倍まではいかない」という規模感である。

Q7: MXDA の価格戦略は積極的に取り組んでいくのか。投資額も大きいので、欧州が立ち上がるまでの繋ぎというよりは、欧州が立ち上がった後も値段を上げていかないとペイしないのではないのか。

A7: MXDA 自身が差異化製品で、相応の付加価値はあるが、原料等の動向も価格には影響する。需要動向については、GDP プラスα程度の伸びを地域ごとに見ているが、昨今の風力発電関係の需要は非常に期待しているところである。価格も出していきながら評価・使用いただいて、それなりの投資額、能力アップとなるので、しっかり回収を図っていく。

Q8: 中計で掲げた事業ポートフォリオ改革について、23 年度に差別化事業の売上構成 4 割以上、不採算・要再構築事業の構成 3%以下という目標に対しての 21 年度の進捗状況はいかがか。

A8: 水島工場の TMP、四日市工場のホルマリンなど、不採算を 3%以下にというところについては着実に進んでいる。ホルマリン事業全体では、J-ケミカル社を傘下に入れ、全体的なポートフォリオ改革の中でホルマリン事業を位置付け、しっかりと着実に進めている。

差異化事業の売上高構成比 40%についても、市況の要因を除けば、達成する方向で今進んでいると思う。そのための投資も着実にやっていく。

Q9: メタノールの市況前提について、中計の前提(325ドル)は控え目にみえるが、今後の中国の動きも含めて、需給や市況見通しについてお伺いしたい。

A9: メタノール市況上昇については、①新しいプラントが立ち上がったが、思ったほどスムーズではなかった、②ハリケーン・アイダの影響、③ヨーロッパが定修明けにうまく動かせなかったことなど、様々な要因がある。さらに、中国のデュアルコントロールとその影響によって石炭価格が上がり、10 月前半に中国メタノール価格も 500ドルを瞬間は超えたが、中国政府が石炭価格にキャップをかけたため反転して中国の 10 月平均は 400ドル強という非常に激しい動きをしている。

今後だが、下期の見通しはこの 10-12 月を 420ドル、その先は、かなり高騰し過ぎたところからのリバウンドが来て 1-3 月は 380ドル程度と見ている。

それから先は夏場に入っていくので、天然ガスのヒーティング用途等々の需要が落ちていき、電力用途も落ちて下がっていくのが通常だが、中国のデュアルコントロールがどうなるのか、今のようにキャップをかけて石炭の価格を上げずにいくのかというのは全く分からない。中々見通しがつきにくいですが、中計の 325ドルを 22 年度は上回るのではとみている。原油価格をはじめ、エネルギー価格が非常に不安定で短期的に動くようになっているので、それに応じてメタノールの価格も動くのはやむなしとみている。そして、エネルギー価格が大きく下がる見通しも、現時点では考えにくいとみている。

Q10: 石炭法メタノールの製造コストのイメージをお伺いしたい。例えば石炭 200ドルだと、石炭法のコストはどのぐらいなのか。恐らく 100ドルでももう 300ドルは超えてくると思うので、かなり高いレベルではないかと想定するが、その理解でよいか。

A10: ご理解の通り。製造コスト及び沿岸部へのデリバリーコストを含めると、250ドルの石炭で 650ドル程度というレベル感と考えている。

Q11: BT 材料について。汎用分野で在庫積み増しがあったということだが、この理由はどういうところにあるのか。いつからいつぐらいの話なのか。また、タイの増強が来年の 4 月に完了だと思いが影響はないのか。併せて、ハイエンドの分野についてもご紹介いただきたい。

A11: 市場での汎用材料の在庫積み増しについては、この上期中に大きな動きがあったと考えている。これは、全般に半導体不足という大きな流れの中で、各メーカーが我々の材料を確保されたところもあって、その流れが上期の好業績に直結しているというところ。下期について、堅調な受注はなされているので、全般に多少減少するにせよ、この中間在庫の積み増しは、大きな影響を我々のビジネスには与えないだろうと考えている。その流れで言うと、現在行っているタイの増強もあまり汎用材料を意識しているわけではないので、影響はほとんどないものと思っている。高付加価値品は堅調に伸びており、特に 5G、ミリ波が進捗してくれば、かなりの伸び率が期待できるのではないかと考えている。

Q12: 大量少品種がタイのつくり方で、汎用品かと思ったのだが、どちらかというとハイエンドの方も増やしていくということか。

A12: 大量少品種をタイでというのは大きな方針ではあるが、今回の増強に関しては、両睨みで、どちらかというと高付加価値品で大量に流れるものを目的にしている。

Q13: MXDA のユーザーも欧州が多いのは分かっているのですが、ロッテルダムという場所に違和感はないのだが、環境規制がこの先厳しくなると思うので、米国という選択もあったのではと思う。欧州を選択した理由を教えてください。

A13: MXDA の現在の最大需要地は欧州のため、欧州立地とした。昨今、相当上がっている輸送費も抑えられる。原料コストも抑えながら、一番競争力のあるプラントとしていく。為替のヘッジを効かせられる点もメリットである。確かに環境規制はアジアに比べて厳しいが、既にクリアして建設ができるようになっている。将来的にハードルが高くなる可能性もあるが、日本で生産したものを持っていくにもハードルが出てくると考えるべきで、地産地消、環境対応等々も、積極的に打って出ていくことで早い段階でクリアして、顧客との関係を強化するという考えで欧州とした。

Q14: メタノール事業の Saudi Methanol Company (以下 AR-RAZI) から日本サウジアラビアメタノール (以下 JSMC) への配当の予定や、JSMC から御社及び他の株主への配当の予定はいかがか。上期の持分法投資損益がかなり膨らんでいるので、キャッシュフローの観点からも教えてください。

A14: 足元の市況では相当の利益が AR-RAZI 側には生じ、JSMC には 25% の配当がある。ただし JSMC には負債とその返済等もあり、詳しくは申し上げられないが当然レンダーとの契約等々があるため、配当についてはその中で様々な可能性を考えていくことになる。

Q15: 光学樹脂ポリマーについて、他社は今期に入ってから安定的に伸びている状況の中、御社は昨年需要が非常に強く今期はその反動が出ている状況だが、なぜ他社と違う動きが出たと分析しているか。今後、出荷の波を平準化させるために、どのような取り組みを考えているか。

A15: 他社とは、恐らく別の材料からレンズ用樹脂を製造しているメーカーを指すと思うが、当社とは使われている枚数・レンズ構成・時系列的な差も出ているのではないかと考えている。昨年はスマホメーカーからの要求もあり非常に需要が活発で、成形メーカー・レンズメーカーが中間在庫を貯めた。その際、当社材に対する枯渇感があり、発注がピークを迎えたと考えているが、これは当社材がデファクトスタンダードとなっているということであり、今後もそれは継続していくと考えている。

平準化はなかなか難しいが、直接のユーザーとコミュニケーションを密にして、将来予測をしっかりと立て、当社からの供給体制を安定化させていく。

以上